



油桐プロジェクトスタートしました！

福井県で400年前からエネルギー源、産業用油として活用してきた『アブラギリ(コロビ)』を現代に蘇らせる油桐プロジェクトをスタートさせました。福井県内に油桐の木がどれくらいあるのか、福井県内各地でどのように油桐が植えられ、桐油が作られていたのか、桐油からどのようなものが作られていたのか、等々を調べてきました。

5月17日 美浜町新庄で油桐花見と古老の話を聞く会を開催。

6月13日・6月25日 美浜町新庄、若狭町河内の油桐調査



バイオマス会議が発足、油桐部会スタート！

7月11日 12日 福井県内で活動しているバイオマス関連市民団体、ペレットストーブ導入自治体などが一堂に集まり交流会が介されました。その場でバイオマス会議が発足、同時に油桐部会もスタートしました。多くの方に油桐を知ってもらえる事ができました。また、桐油活用策のいろいろなアイデアが出されました。

油桐P
今後の活動案内
参加しませんか

10月に入ると油桐実収穫の時期になります。いよいよ油絞り開始です。昔の文献を参考にした今後のスケジュール(予定)です。活動場所は美浜町新庄の『森と暮らすドングリ倶楽部』です。

- 油桐の下草刈り 9月26日(土) 10:00 ~
- 油桐実拾い開始 10月17日(土) 10:00 ~
- 油桐実殻をとるための臼搗き 10月31日(土) 10:00 ~
- 桐油絞り 11月23日(月) 10:00 ~

自然のものですから、スケジュール通りには行かないと思います。また、実拾いも油絞りも1回ではできません。この時期は毎日作業がありあります。誰でも自主的に作業できる様にしておきたいです。

参加希望の方にはメールでお伝えしていきます。

塗料、インク、撥水・防水・防腐剤、バイオディーゼル等々のテストを行います。



常神半島

神子の古老から“コロビ”の話を聞き、若狭の魚を食べる会

9月26日(土) 15時 常神半島・神子「民宿 藤乃屋」集合

参加費 12,000円(1泊2食 飲み物・税込み)

民宿に集合した後、民宿ご主人に昔のコロビ畑、天然記念物神子山桜を案内してもらいます。

福井県の油桐栽培は1500年代に常神半島(西田村)で始まり、昭和41年(1966年)まで行われていました。常神半島は栽培の歴史、収穫量ともに日本一の産地でした。



草刈り風景です。



落下したコロビ



林道脇でコロビ収穫



収穫したコロビ



樹齢250年以上の神子山桜

「コロビ」収穫の秋！！

いよいよ油絞りの準備へ！

コロビ草刈り・コロビ収穫

5月より進めてきました油桐プロジェクトも、いよいよ油桐実（コロビ）の収穫を終え、油を絞るための準備に入りました。

9月26日（土）：美浜町新庄にてコロビを拾いやすくするための下草刈りを、また、すでに落ちていたコロビの実を拾う作業も同時に行いました。この日は若狭町神子に移動、地元の藤原さんの案内で神子のコロビ畑の跡地や、樹齢250年はたっているであろう天然記念物神子山桜を見学、コロビ栽培などの昔話を聞きました。

10月12日（月）：美浜町新庄、若狭町河内でコロビ拾いを行いました。前週に日本上陸した台風の影響で、コロビはすべて落下、目をつけていた油桐をめざしてのコロビ拾いツアーでした。

10月18日（土）：再度のコロビ拾いを実施。12日に拾い尽くせなかった若狭町河内と小浜市田烏を周りまわりました。

草刈り、収穫と作業を行いました。常に新しい参加者がいました。コロビが人の心をつかみ始めています。

「コロビ」臼搗き作業の案内

今の時期、福井県中各地で「コロビ」を臼で搗く作業が行われていました。収穫したコロビを追熟し、果肉を取り除いた後、殻から種を取り出すための作業です。美浜町や旧三方町の郷土史には作業風景が書かれています。「桐実から皮殻を取り去って種実を選別する作業を、「ころびし、又はころびつき」と呼び、村内近隣協力し合って、「ゆい」という作業形態がとられる。皮殻のまま桐実が臼に投げ込まれるのを、待ちかまえた男のつき手2、3名は、かけ声勇ましくつき始める。次々に投げ込まれる桐実は、皮が破れて臼からあふれ出る。待ち受けていた女どもは、竹製のふるいを通して選別し、しばらく乾燥させた上、1俵5斗の俵に入れて出荷する。（三方町郷土誌・河内区）」

油桐プロジェクトでも昔のやり方で作業を行います。

日時：10月31日（土）10：00～

場所：森と暮らすどんぐり倶楽部（美浜町新庄）
参加自由、現地集合をお願いします。



コロビ油絞りの日程が決定！

油桐プロジェクト初のコロビ油絞りを行います！！

11月29日（日）10時から

森と暮らすどんぐり倶楽部で行います！

自生・アブラギリ生かせ

桐油で地域おこし

美浜町新庄の林業者の団体に利用されてきた。新庄地業の活性化に取り組んで体「森と暮らすどんぐり区」でも以前は盛んに栽培されている同倶楽部が、県内で倶楽部」が、かつて県内で盛んに栽培されていた落葉樹アブラギリの種から搾り取る「桐油」を復活させる

美浜 林業者団体が商品化研究

試みを進めている。塗料や はっ水剤などとして商品化し、地域の活性化につなげるのが狙いだ。

アブラギリは、戦後間もないころまで各地の山間地などで栽培され、桐油は塗料や防腐剤、はっ水剤など

地だった。だが石油化学製品の普及などもあり、現在、県内ではほとんど作られていない。

ただ美浜町内には自生も

も日本はあることが分かり、十月に種を拾う収穫作業を行って、搾油機で油を搾る。搾った油をカーデニング資材や床などに塗り、塗料やはっ水剤などとして、効果を試すなどして、商品化に向けた研究を続ける。

中心となって活動する松下照幸さん(ア)は「販売可能な商品ができれば、その後は栽培も始め、事業を前進させていきたい」と意気込んでいる。

(立石智保)



自生するアブラギリの前で桐油復活の取り組みを語る松下照幸さん(美浜町新庄で)

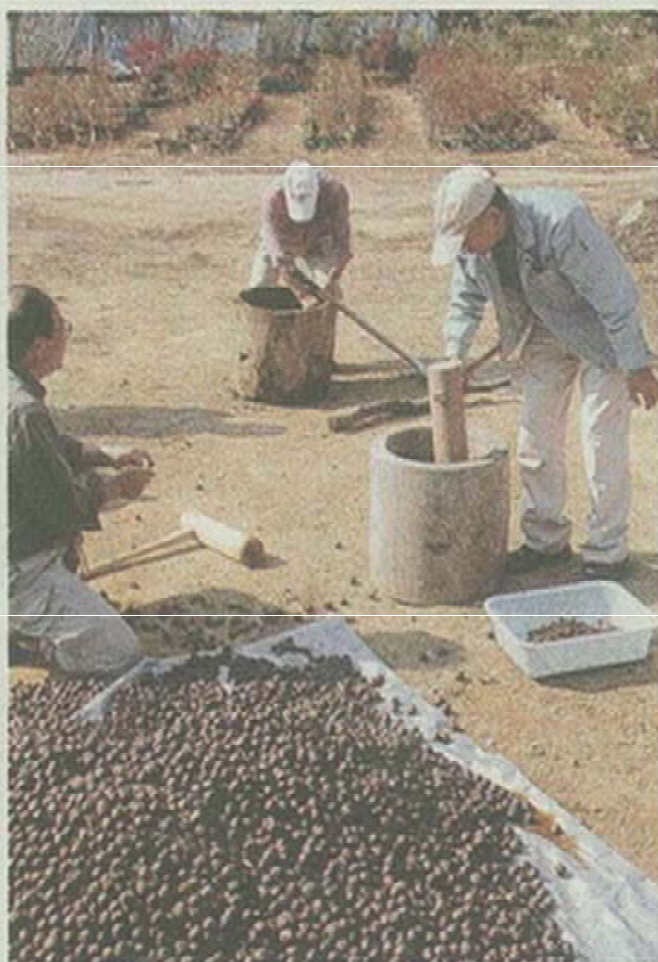
美浜 「油桐」復活プロジェクト

昔ながら 実の殻外し

かつて本県の一大産業だった「油桐産業」を復活させようと活動している「越前若狭 安心安全倶楽部油桐プロジェクト」と「森と暮らすとんぐり倶楽部」などは31日、美浜町新庄でアブラギリの実の殻を外す作業を行った。白ときねを使い、昔ながらの手法を再現。取り出した種は約1カ月乾燥させ、11月下旬に油を搾ることになっている。

アブラギリはトウダイクサ科の落葉高木。種からとれる桐油は灯油用や撥水剤として約300年前から使用され、本県は江戸時代から昭和にかけて、日本を代表する生産地だった。

白に入れたアブラギリの実の殻をきねで外す「森と暮らすとんぐり倶楽部」のメンバーら31日、美浜町新庄



白、きねで再現 下旬に油搾り

この産業を復活させ、バイオ燃料や商品開発につなげようと、両団体は中心となり今年5月から活動している。

メンバーは10月、同町新庄や若狭町、福井、小浜両市で自生しているア

ブラギリから実約4000kgを拾い集めた。

この日の作業にはメンバー8人が参加。熟して黒くなった直径2〜3cmの実を昔ながらの白ときねで押しつぶし、殻を外していった。白で殻を外

すのは嶺南特有だといふ。

つぶした実には水を入れたバケツに移し、洗いながら約1kgの種を取り出した。

同プロジェクトメンバーの後藤勇一さん(49)は「種の25%は油成分。下旬には日本では行われていないドリルを用いた方

法で種を粉碎し、油を搾る。多く搾り出したい」と期待を寄せている。差別や偏見なくせ障害者作詞曲歌う

小浜でコンサート

奈良市の障害者通所授産施設「たんぼほの家」の職員らによる「わたぼうしコンサート」が29日、小浜市遠敷小で開かれた。写真。全国の障害者が作詞した曲など6曲を披露した。

同コンサートは同家の職員やボランティアらが、障害に対する偏見や差別をなくし、生きることにについて考えてもらおうと、全国約50カ所で開催している。今回、県社会福祉協力校に指定されている同校が、小浜市社協の支援を得てコンサートを開催。全校児童や保護者ら約230人が参加した。

若狭アブラギリ産業復活取り組み

美浜で有志団体

アブラギリはトウタイグサ科の落葉高木で、種から「桐油」と呼ばれる油がとれる。若狭地方では江戸期から戦後間もないころまで、この木を大量に植えて搾油。多いときは全国の約6割を生産

中心に県内の有志でつくる「越前若狭 安心安全倶楽部桐油プロジェクト」と、同町の住民グループ「森と暮らしとく」が共同で復活活動に取り組んでいる。この日は約20人のメンバーが集まり、実から取

り出して1カ月ほど乾燥させた種から、機械で油を搾り出す作業にチャレンシした。種に水分が多く、難航。から煎りして機械にかけるなど試行錯誤を繰り返した。

同プロジェクトの後藤勇一さんは「初めてのことで、失敗はつきもの。これまででの作業方法や油の

成分、どのくらいの種からどのくらいの量の油がとれるのかなどデータを整理し、生産体制を整えていきたい」と話す。桐油は木材加工品の防腐剤や撥水剤のほか、農業機械類の燃料などさまざまな分野で活用できる。今後は需要開拓や商品開発などを中心に進行。来年は、周辺に新たに苗木を植える計画も進める。

ついに到達

試行錯誤 夢に前進

桐油搾り

かつて全国一の生産を誇っていた若狭地方のアブラギリ産業を復活させようと、美浜町新庄を舞台に行われているプロジェクトで29日、アブラギリの種から搾油する作業が行われた。収穫から生産まで一通りの工程を終え、今後は油の成分分析を行い基礎データをまとめるほか、商品開発に向けた取り組みを進める。

データ整え商品化へ



乾燥させたアブラギリの種から機械で油を搾るメンバーたち＝美浜町新庄

原子力機構V

サッカー

敦賀市協会長杯

サッカーの敦賀市協会

長杯大会(福井新聞社共

催)は29日、決勝などが

同市総合運動公園陸上競

技場で行われ、原子力機

構敦賀が優勝した。

5チームが出場し、22

日に開幕。トーナメント

地域産業支えた 落葉高木

「油桐」で商品開発へ

美浜・新庄

燃料、葉寿司など



地元のお年寄り（中央）からかつての桐油産業について話を聞くNPOの代表ら—美浜町新庄の「森と暮らすどんぐり倶楽部」

地元住民、NPOが始動

日本人に親しまれてきた桐油を絞る、成分などを地域資源を現代に生かす分析。バイオ燃料や葉、そう。美浜町新庄地区 木を使った商品開発につでかつて盛んだった「油」なげたい考えた。

自然の恵みを生かしたなどの水利用として約三百年前から使用され、本県は江戸時代から昭和に「森と暮らすどんぐり倶楽部」と、福井市のNPO法人「コラボNPOふくい」が中心となり、越前若狭・安心・安全倶楽部を四月に設立。プロジェクト内容を話してきた。アブラギリはトウダイグサ科の落葉高木で、実から油が取れることから「油桐」と呼ばれる。桐油は灯油用やかっぱ、傘

桐油産業」を復活させ、地域おこしに役立てる住民らのプロジェクトが十七日、本格始動した。まず、は地元のお年寄りから歴史などを聞き取り、今秋にはアブラギリの実から桐油を絞る、成分などを

かけて日本一の生産を誇生している」と、どんぐり倶楽部の松下照幸さん

十七日に同地区で開かれた「話を聞く会」で、高木武太郎さん（六三）美浜町新庄は「同地区では一九五五年ごろまでアブラギリを栽培、実を収穫し出荷していた」と紹介。久保正勇さん（六三）同は「ころび（アブラギリ）の白い花はきれいだった。成長は早く、下草を刈って落ちた実を拾った」と話した。「同地区内の山には三十本近いアブラギリが自



ロビンチ子原電原
ペンたの関電原
ランスの関電原
トランスの関電原
エンに美浜町部
力事業本

原発廃材ベンチ美浜にお目見え
原発の解体現場から出

た廃材で作られたベンチが、美浜町の関西電力原子力事業本部エントランスロビーに設置された。

小浜市阿納尻の特別養護老人ホーム「若狭ハイッ」で十八日、開所十五

に廃材が使われている。同様のベンチは、県内では日本原電敦賀原子力館にも設置されている。若狭ハイッで開所15年催し

小浜 開所15年催し
小浜市阿納尻の特別養護老人ホーム「若狭ハイッ」で十八日、開所十五